



経済情報コーナー

四国4県でのシンガポール食品見本市への出展とマレーシア視察

徳島県グローバル戦略室室長補佐 大岡 士郎

■ 四国4県・東アジア輸出振興協議会

徳島県、香川県、愛媛県、高知県の四国4県は、2011年度に四国産品の海外販路開拓支援のため、各県のジェトロとも連携して「四国4県・東アジア輸出振興協議会」（以下、協議会）を設立しました。協議会を設立した理由には、各県単独の事業展開では、どうしても予算規模やマンパワーに限界があり、十分なPR効果もあげにくいということがあります。これまでに中国・上海市での合同商談会や中国バイヤー招へい商談会の開催、伊勢丹シンガポールにおける四国フェアの開催など、食品分野の販路開拓支援においてさまざまな事業を実施してきましたが、4県連携で実施することにより、規模のメリットを活かした効果的な事業の実施や、4県での活発な意見交換、情報交換を行うことができます。

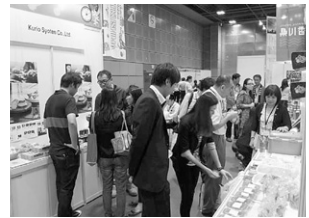
■ シンガポール ■ Oishii JAPAN 2013への出展

協議会では、今年度の事業として、クレアの海外経済活動支援特別対策事業で助成を受けながら、10月17日～19日にシンガポールで開催された「Oishii JAPAN 2013」に合同で出展しました。「Oishii JAPAN 2013」は、毎年シンガポールで開催されているASEAN最大級の日本食品の総合見本市で、シンガポールがアジアの物流ハブとして機能していることを反映し、ASEANなど周辺諸国からも多くのバイヤーが訪れることでも知られています。今回、4県でそれぞれ参加企業を募集した結果、徳島県3社、香川県4社、愛媛県5社、高知県2社の計14社（団体）が参加することとなりました。出展商品は幅広く、米・青果物が

菓子、水産加工品、調味料など、四国の素材を活かしたおいしい食品が数多く出展されました。シンガポールはもちろん、インドやマレーシア、インドネシアなどからもバイヤーが訪れ、商品情報をもとに事前にマッチングが行われたこともあって、各企業はさまざまな国籍のバイヤーと有意義な商談をすることができたようです。各国のバイヤーたちも熱心で、日本にしかない、珍しいものに対して、非常に興味を示していました。



Oishii JAPAN商談風景①



Oishii JAPAN商談風景②

■ 愛媛県の魚・讃岐うどんのPR

「Oishii JAPAN 2013」の開催期間中には趣向をこらしたさまざまなイベントも開催されました。その内、17日には、現地の日本料理店による、愛媛県の魚を使用した料理ショーが開催され、まぐろの解体などに多くの観客が集まって熱心に見入っていました。また最終日には讃岐うどんの手打ち教室が開催され、子ども連れの家族で大変な賑わいを見せ、親子で楽しそうにうどんを打つ姿が見られました。手打ち教室の後にはうどんの試食も行われ、徳島県からすだち、高知県からゆず、愛媛県から塩と、四国各県の特産品も提供されて、多くの方に四国



讃岐うどん手打ち教室



の味を味わってもらうことができました。会場には、このほかにも日本のラーメンを提供するブースや、日本の酒をつまみとともに紹介するコーナーも設けられ、日本食品のPRに一役買っていました。

■ ■ マレーシア視察

「Oishii JAPAN 2013」終了後、協議会では希望者により、隣国マレーシアへの視察を実施しました。マレーシアはシンガポールの隣国ですが、イスラム教徒が多いなど、国情はシンガポールとはまったく違います。協議会としても未だ事業を実施していない地域であり、今後の事業展開へつなげていくための重要な視察と位置づけていました。視察は、10月20日・21日の両日、「Oishii JAPAN 2013」から引き続き参加した10社（団体）に加え、行政など総勢25人が参加して行われました。

■ ■ 現地小売店視察

視察の第1日目には、ミッドバレー・メガモールおよびスリアKLCCの2つのショッピングモールを視察しました。ミッドバレー・メガモールはマレーシア最大級の巨大モールで、イオン（スーパーマーケット）やイオンビッグ（ハイパーマーケット）が入っているほか、隣接するガーデンズと呼ばれるショッピングモールには、シンガポール資本の高級スーパー・コールドストレージが入居しています。イオンの視察にあたっては、日本人の担当者に同行していただき、ハラル食品の取り扱いなどさまざまな事情をご教示いただきました。スリアKLCCは有名なペトロナス・ツインタワーに隣接したモールで、伊勢丹が入居しており、視察時には、日本名門酒会による日本酒フェアや日本産の菓子類のフェアが開催されていて、視察団はフェア関係者に質問したり、売り場を確認したりと思い思いに視察をしていました。

■ ■ ジェトロ訪問・意見交換会の実施

視察の2日目には、ジェトロ・クアラルンプールセンターを訪問したほか、イオンマレーシアや

伊勢丹クアラルンプールの食品担当者との意見交換会を開催しました。ジェトロでは、マレーシアの概況のほか、日本食品の流通状況、ハラル認証の問題などについて、ご説明をいただきました。特にマレーシアのハラル認証は、イスラム教国の中でも権威があり、中東でも通用するということがわかった一方で、ハラル認証を取得することの難しさも教えていただきました。イオンや伊勢丹との意見交換会では、両社のマレーシアでの戦略、日本フェアの開催状況、売れ筋の日本食品やこれから期待する商品など興味深い話を数多く聞くことができました。また、これら視察や意見交換会を通じ、イスラム国家とはいえ、購買力のある中国系を中心に日本酒やラーメンなどハラル以外の市場の存在についても学ぶことができました。この両社の店舗を前日に視察していることから、活



伊勢丹クアラルンプールとの意見交換会

発に質疑応答が行われ、より内容の濃い意見交換会とすることができたと思います。

■ ■ 成果と課題

「Oishii JAPAN 2013」への出展とマレーシアへの視察を通じ、海外バイヤーとの商談、四国産品のPR、新たな市場に対する理解促進と、3つの面で効率よく成果を挙げることができたと思います。課題は、やはり継続して四国産品をPRすることにより、ブランドの浸透を図ることでしょう。また各県がジェトロなどと連携し、企業の商談継続に対し、十分な支援を行うことが求められていると思います。さらには、ハラルに代表されるような新たな市場への挑戦においても、企業のニーズを見極めながら、行政として積極的な対応をしていきたいと考えています。四国4県・東アジア輸出振興協議会では、今後も東アジア・東南アジアを中心に、積極的な事業展開を図っていく予定です。